

研究所だより

住まい・まちづくり

本号では、「住まい・まちづくり」をテーマとして、住宅市場を俯瞰することから始まり、多様な住まい方への実現支援の現状や、弊社での実践的なまちづくりへの取組みなど、幅広い多様な視点とそれに応じた複数のチームからの原稿により構成しています。

「住まい・まちづくり」という言葉は様々な場面で使われています。それだけ捕捉できる範疇が広く、使い勝手の良い言葉である一方、多様な分野が絡み合う奥深い言葉でもあります。

同じ専門分野の間でも、この言葉の捉え方も異なり、ましてや、異なる分野間では尚更のことです。

しかし、これからの「住まい・まちづくり」には、多様な専門分野からの視点により調査研究し、実践し、評価していくことが重要であると考えています。

特に、客観的な視点から、「住まい・まちづくり」に対する各種取組みの効果について評価していくことが、今後は一層求められてくるのではないのでしょうか。

編集者から

本号のように、「住まい・まちづくり」をテーマとした場合には、「地域」という言葉を抜きにして語れません。まちづくりが実践的になればなるほど、地域性の重要度が高まり、突き詰めれば個人と個人の問題にもなります。

一方、調査研究という立場からは、地域（例えば、都道府県や市町村）を横並びにして、一定のテーマに即して、それぞれの特性分析を求められることが多くあります。

最近では、地域特性に応じて実践されている地域の住まい・まちづくり政策について、どのようにして客観的な評価を行なうのかについても検討が進められています。

弊社でも、同様のご依頼を頂戴したり、また自主的に調査研究を行っていますが、筆者がかかわる住宅土地政策や住宅市場分野に関しては、地域の視点による現状分析の段階がまだまだ不十分であること、そして、分析を行うための統計が不足していることを感じています。

統計の充実が様々なところで求められていますが、住まい・まちづくりの分野においても、官民一体となり、様々な統計の充実や情報の発信が、今後も益々求められるのではないのでしょうか。

Best Value では、今後も、皆さまのお役にたてるよう、様々なテーマに取り組みたいと思っておりますので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。